



拡張現実(AR)技術による新たな地質体験アプリ「ジオ・ビュー」の社会実装

世界の
あしたが見えるまち。
TSUKUBA

②国立研究開発法人 産業技術総合研究所

背景・目的

産総研地質調査総合センターは、明治15年から日本の地質の研究を行ってきた研究所です。最近、ジオパークをはじめとしたジオ観光や防災の場面で地質の話が聞かれますが、一般には地質図をはじめとした地質情報の認知度は高いとは言えません。

AR技術を使って、スマホで目の前の景色と地質情報を重ねることで簡単に楽しく地質情報と親しみ、一人でも地質観光ができるアプリを開発しました。産総研のあるつくば市でこのアプリの実証実験をしました。

どう見たらいいの？



実験内容

モニターは、一般公募によって多様な年代層からのご意見をいただくことを想定していましたが、新型コロナウイルス感染症の対策のために、ジオパーク室、エキスポセンター、産総研内での募集に変更した。33名の方にモニターをしていただき、偏りはあるものの、様々な世代の方から意見をいただきました。モニターには、つくば市神郡で筑波山を観察しながらジオ・ビューの操作説明をした後、筑波山梅林、筑波山神社周辺の順でジオサイトを回っていただきました。

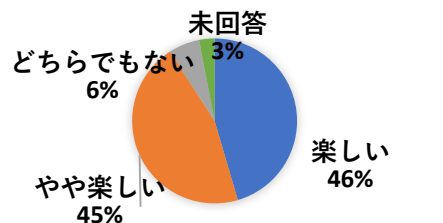
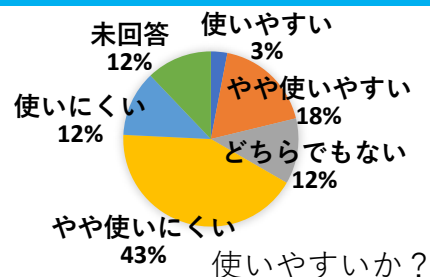


実験（検証）結果

アンケートの結果、約半数が操作性に難ありと答えたものの、楽しかった、また使いたいという方が90%を超えていました。また、これまでに地質図を知っている方・知らない方いずれも理解をしやすくなった、地質を知りたくなったという好意的な回答が90%を超えており、ジオ・ビューの改善に向けて有益なデータが得られました。

主な改善事項としては

- ・初期設定と初期の位置補正の難しさ
 - ・インターフェイスの改善
 - ・コンパクトな画面ではあるが、対象ごとにの階層付けをするなどして、ユーザーニーズに沿った情報が簡単に取ることができるような工夫の必要性
- などの指摘がありました。



楽しかったか？

今後の展望

平成30年～令和元年

令和2年

令和3年～

技術的課題・市場調査を行い、ジオ観光を目的とした試作機を作成

試作機を改修し、モニターによる実証実験

実用化に向けて

- ・技術的課題（操作性の悪さ）の克服
 - ・対象（ユーザー）を絞る
 - ・実用化パートナーを模索
- を行い、改修・適切なコンテンツ作成

実用化